
2023 年度 仙北市人口ビジョン（別冊）

目次

I	本ビジョン作成の経緯と各種データ指標.....	2
1	前ビジョンとの乖離	3
2	2015 年からの人口動態の特徴(住民基本台帳データから)	4
3	少子化関係（出生率、未婚率等）指標の整理.....	6
II	人口推計	15
1	コーホート変化率	15
2	人口推計可変型	19
3	推計間比較	20
III	人口目標	24

I 本ビジョン作成の経緯と各種データ指標

仙北市における 2015 年に示された人口ビジョン（以下、前ビジョンと略）で示された推計結果は、結果として、発表された国勢調査の実数値とは乖離するものになった。加えて、関連する未婚率、初婚年齢などの数値も良化に転換することができなかった。

この現状を踏まえ、現行の人口ビジョンを補完するかたちで「人口ビジョン（別冊）」（以下、別冊と略）を策定する。この別冊を軸として、今後の仙北市役所における各種行政サービスの提供量の適正化を図ることとする。また、推計にあたっては地理的条件が異なる 10 地区（以下、地区別）に分割し、データの整備を行う。

※地区別

生保内地区、田沢地区、神代地区、角館地区、中川地区、雲沢地区、白岩地区、上桧木内地区、桧木内地区、西明寺地区

各種データ指標の出典は以下。

総人口に関しては、総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」、総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数に関する調査」、2020 年までは「国勢調査」のデータに基づく実績値、2025 年以降は「国立社会保障・人口問題研究所」のデータ（2018 年 3 月公表）に基づく推計値。仙北市分は、現行の人口ビジョンから引用。

1 前ビジョンとの乖離

前ビジョンでは、推計 1、2 が推計人口とされた（図表 1 参照）。しかし、2015 年から実数との比較を行うと大きな乖離が発生している。

図表 1 前ビジョンとの差

（単位：人）

年	総人口	推計 1	実数－推計 1	推計 2	実数－推計 2
2010	29,568	29,568	0	29,568	0
2015	27,523	27,674	-151	27,651	-128
2020	24,610	25,834	-1,224	25,771	-1,161
2025 年以降は推計値					
2025	22,942	24,092	-1,150	23,997	-1,055
2030	20,642	22,487	-1,845	22,346	-1,704
2035	18,472	21,051	-2,579	20,853	-2,381
2040	16,306	19,728	-3,422	19,462	-3,156
2045	14,231	18,492	-4,261	18,199	-3,968

（出典）総人口：2010-2020 年は国勢調査、2025-2045 年は総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」【注記】 2025 年以降は「国立社会保障・人口問題研究所」のデータ（2018 年 3 月公表）に基づく推計値。

2 2015年からの人口動態の特徴(住民基本台帳データから)

(1) 社会増減／自然増減

全体としては、ここ7年で3,873人減少した(図表2参照)。人口減少そのものの数値は悪化しているわけではない。傾向としては、510～570人前後を推移している。社会増減では140～190人の間を推移している。自然増減では320～400人の間を推移している。自然増減と社会増減の比率では自然増減の比率は約2倍となるなど、自然増減のインパクトが大きいことが見て取れる。

図表2 社会増減／自然増減

(単位：人)

年	社会増減数	実数(2015との差)	自然増減数	実数(2015との差)	人口増減数	実数(2015との差)
2015	-183	0	-329	0	-512	0
2016	-195	-12	-368	-39	-563	-51
2017	-190	-7	-356	-27	-546	-34
2018	-180	3	-384	-55	-564	-52
2019	-176	7	-393	-64	-569	-57
2020	-141	42	-402	-73	-543	-31
2021	-185	-2	-391	-62	-576	-64
計	-1,250	31	-2,623	-320	-3,873	-289

(出典) 総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」再編加工

【注記】2012年までは年度データ、2013年以降は年次データ。2011年までは日本人のみ、2012年以降は外国人を含む数字。

図表3 社会増減／自然増減

年	社会増減数	自然増減数	社会／自然
2015	35.74%	64.26%	1.80
2016	34.64%	65.36%	1.89
2017	34.80%	65.20%	1.87
2018	31.91%	68.09%	2.13
2019	30.93%	69.07%	2.23
2020	25.97%	74.03%	2.85
2021	32.12%	67.88%	2.11
計	32.27%	67.73%	2.10

(出典) 総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」再編加工

【注記】2012年までは年度データ、2013年以降は年次データ。2011年までは日本人のみ、2012年以降は外国人を含む数字。

(2) 三世代人口推移

2000年には60.74%だった生産年齢人口は、推計では生産年齢と老年人口の比率が2025年で逆転する。さらに2040年には老年人口が50%以上を占めることが推計で見取れる。

図表 4 3世代推移・人口ピラミッド

【実数】					(単位：人)
年	総人口	年少人口	生産年齢人口	老年人口	
2000	33,565	4,173	20,388	9,004	
2005	31,868	3,554	18,477	9,837	
2010	29,568	3,179	16,462	9,927	
2015	27,523	2,740	14,187	10,563	
2020	24,610	2,135	11,845	10,533	
2025年以降推計					
2025	22,942	1,956	10,463	10,523	
2030	20,642	1,684	9,087	9,871	
2035	18,472	1,416	8,056	9,000	
2040	16,306	1,195	6,790	8,321	
2045	14,231	1,011	5,639	7,581	
【比率】					(単位：%)
年	総人口	年少人口	生産年齢人口	老年人口	
2000	100.00	12.43	60.74	26.83	
2005	100.00	11.15	57.98	30.87	
2010	100.00	10.75	55.68	33.57	
2015	100.00	9.96	51.55	38.38	
2020	100.00	8.68	48.13	42.80	
2025年以降推計					
2025	100.00	8.53	45.61	45.87	
2030	100.00	8.16	44.02	47.82	
2035	100.00	7.67	43.61	48.72	
2040	100.00	7.33	41.64	51.03	
2045	100.00	7.10	39.62	53.27	

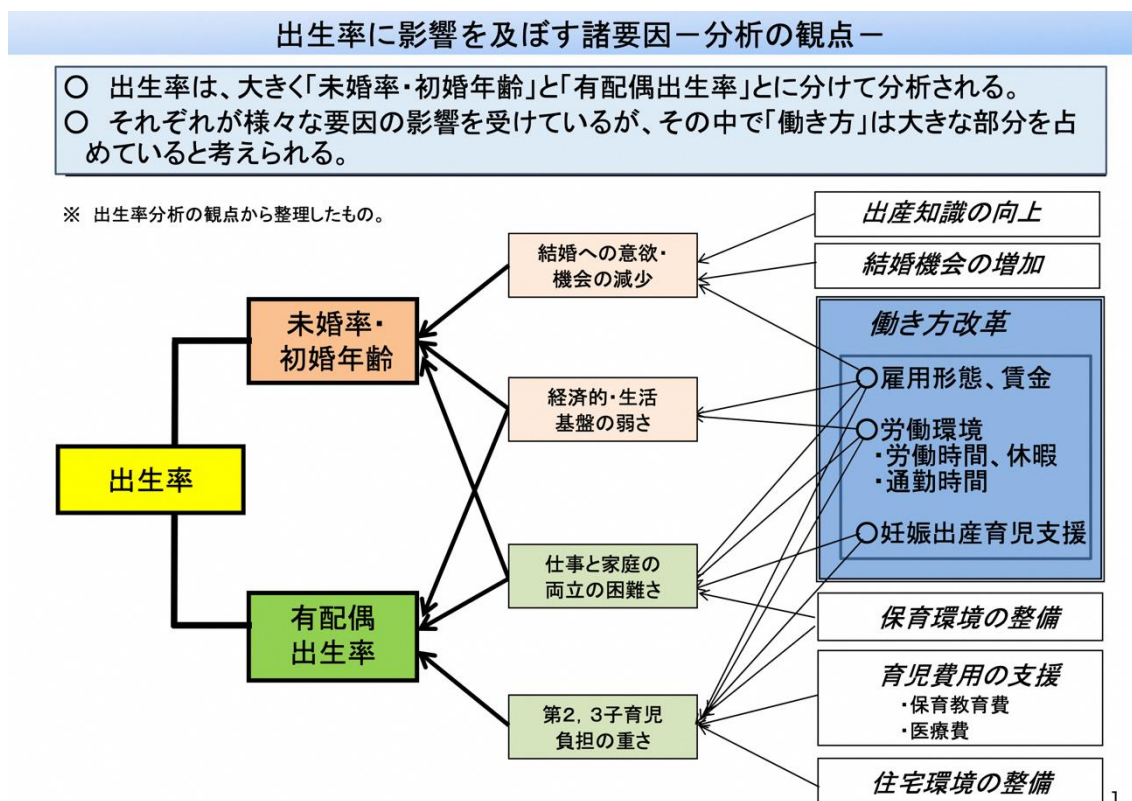
※総人口には年齢不詳を含みます。

(出典) 総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」

3 少子化関係（出生率、未婚率等）指標の整理

合計特殊出生率、有配偶出生率、未婚率（25～39歳）、平均初婚年齢は「地域少子化・働き方指標」第2版～第5版のデータを使用した。合計特殊出生率、有配偶出生率、未婚率（25～39歳）、平均初婚年齢はそれぞれ、「地域少子化・働き方指標」において、出生率の構造分析をする上で重要な指標として示されている。

図表 5 出生率に影響を及ぼす諸要因



<https://www.chisou.go.jp/sousei/info/pdf/r04-12-26-shihyou5.pdf>

（出典）内閣官房・内閣府「地域少子化・働き方指標」第五版

◎合計特殊出生率、有配偶出生率：県内順位は大きい数値が上位、小さい数値が下位

◎未婚率、平均初婚年齢：県内順位は小さい数値が上位、大きい数値が下位

(1) 合計特殊出生率

仙北市の合計特殊出生率は、2008-2012年に1.49で県内5位、2013-2017年には1.38で県内9位となり、0.11ポイント低下している。

近隣の大仙市は2008-2012年に1.39で県内14位、2013-2017年には1.42で県内3位となり、0.03ポイント上昇している。

仙北市と大仙市を比較すると、2008-2012年には仙北市が0.1ポイント差で大仙市より上位だが、2013-2017年には仙北市が-0.04ポイント差で大仙市より下位になっている。

図表 6 合計特出生率の推移

合計特殊出生率	2008~2012年	順位	2013~2017年	順位
秋田市	1.25	23	1.32	20
能代市	1.40	13	1.28	23
横手市	1.50	4	1.39	6
大館市	1.47	8	1.38	8
男鹿市	1.12	25	1.23	25
湯沢市	1.44	9	1.32	19
鹿角市	1.58	1	1.43	2
由利本荘市	1.51	2	1.37	11
潟上市	1.20	24	1.33	16
大仙市	1.39	14	1.42	3
北秋田市	1.48	7	1.44	1
にかほ市	1.49	5	1.41	4
仙北市	1.49	5	1.38	9
小坂町	1.37	15	1.37	10
上小阿仁村	1.42	12	1.36	13
藤里町	1.37	15	1.36	12
三種町	1.27	20	1.28	24
八峰町	1.51	2	1.33	15
五城目町	1.34	19	1.33	17
八郎潟町	1.26	21	1.32	21
井川町	1.26	21	1.31	22
大潟村	1.43	11	1.35	14
美郷町	1.35	18	1.32	18
羽後町	1.44	9	1.41	5
東成瀬村	1.36	17	1.39	7

(出典) 内閣官房・内閣府「地域少子化・働き方指標」第五版

(2) 有配偶出生率

仙北市の有配偶出生率は、2010年に66.0で県内13位、2015年に73.8で県内4位となり、7.8ポイント上昇したが、2020年には54.5で県内18位、2015年から-19.3ポイントと大きく低下している。

近隣の大仙市は2010年に69.1で県内6位、2015年に76.3で県内3位、2020年に58.7で県内13位となっている。

仙北市と大仙市を比較すると、仙北市は2010年で-3.1ポイント差、2015年で-2.5ポイント差、2020年で-4.2ポイント差であり、すべて仙北市が下位になっている。

図表 7 有配偶出生率の推移

有配偶出生率	2010年	順位	2015年	順位	2020年	順位
秋田市	66.7	12	70.6	8	62.4	10
能代市	69.8	4	62.4	18	64.3	4
横手市	70.6	3	71.0	6	60.7	11
大館市	67.7	10	73.4	5	63.5	9
男鹿市	61.2	20	63.4	17	53.8	19
湯沢市	62.6	17	55.9	21	57.2	17
鹿角市	73.3	2	67.7	13	58.4	15
由利本荘市	73.5	1	68.2	10	64.2	6
潟上市	57.4	22	62.1	19	58.5	14
大仙市	69.1	6	76.3	3	58.7	13
北秋田市	68.3	7	69.9	9	50.1	22
にかほ市	63.1	16	65.8	14	50.0	23
仙北市	66.0	13	73.8	4	54.5	18
小坂町	54.3	23	39.8	24	57.6	16
上小阿仁村	39.0	25	29.2	25	51.3	21
藤里町	46.2	24	68.0	11	21.1	25
三種町	67.1	11	67.9	12	59.2	12
八峰町	58.5	21	52.4	22	63.7	8
五城目町	69.1	5	70.7	7	64.2	5
八郎潟町	68.1	8	65.6	15	74.2	1
井川町	62.5	18	51.5	23	32.2	24
大潟村	67.8	9	57.7	20	63.8	7
美郷町	62.2	19	79.3	2	51.6	20
羽後町	65.2	15	63.8	16	67.7	2
東成瀬村	65.2	14	85.2	1	66.2	3

(出典) 内閣官房・内閣府「地域少子化・働き方指標」第五版

(3) 未婚率（25～39歳）

① 男性

仙北市の男性の未婚率は、2010年に46.4%で県内2位、2015年に48.9%で県内5位となり、2.5ポイント上昇、2020年には55.3%で県内7位、2015年から6.4ポイント上昇しており、2010年と2020年を比較すると男性の未婚率は8.9ポイント上昇している。

近隣の大仙市は2010年に48.1%で県内9位、2015年に48.9%で県内4位、2020年に50.4%で県内3位となっている。

仙北市と大仙市を比較すると、仙北市は2010年で-1.7ポイント差、2015年は同率、2020年で4.9ポイント差であり、2010年に仙北市が上位だったものが、2020年は仙北市が下位になっている。

図表 8 未婚率（男性）の推移

未婚率 (25～39歳)	男性					
	2010年 (%)	順位 (位)	2015年 (%)	順位 (位)	2020年 (%)	順位 (位)
秋田市	46.7	3	48.0	2	49.3	1
能代市	46.9	4	51.6	11	56.4	11
横手市	47.6	7	49.1	6	53.1	4
大館市	47.6	6	49.7	7	54.3	6
男鹿市	59.7	24	58.7	21	62.8	20
湯沢市	51.5	14	53.9	14	58.5	12
鹿角市	48.3	10	49.9	8	55.8	9
由利本荘市	47.8	8	50.5	9	54.0	5
潟上市	47.3	5	48.7	3	50.4	2
大仙市	48.1	9	48.9	4	50.4	3
北秋田市	53.6	19	54.0	15	59.6	14
にかほ市	52.0	16	51.9	12	60.5	15
仙北市	46.4	2	48.9	5	55.3	7
小坂町	49.6	11	58.3	20	61.4	16
上小阿仁村	64.2	25	59.8	23	66.8	24
藤里町	55.7	20	60.2	24	67.7	25
三種町	51.6	15	56.5	18	61.6	17
八峰町	53.1	18	59.5	22	64.4	22
五城目町	58.7	23	57.9	19	61.9	18
八郎潟町	57.0	22	60.7	25	63.6	21
井川町	50.5	13	56.2	17	66.5	23
大潟村	41.3	1	46.1	1	56.1	10
美郷町	49.8	12	51.3	10	55.6	8
羽後町	52.3	17	54.9	16	58.8	13
東成瀬村	56.9	21	53.7	13	62.1	19

(出典) 内閣官房・内閣府「地域少子化・働き方指標」第五版

② 女性

仙北市の女性の未婚率は、2010年に31.3%で県内9位、2015年に34.7%で同じく県内9位となり、3.4ポイント上昇、2020年には37.2%で県内10位、2015年から2.5ポイント上昇しており、2010年と2020年を比較すると女性の未婚率は5.9ポイント上昇している。

近隣の大仙市は2010年に32.5%で県内12位、2015年に34.1%で県内8位、2020年に36.6%で同じく県内8位となっている。

仙北市と大仙市を比較すると、仙北市は2010年で-1.2ポイント差、2015年及び2020年で0.6ポイント差であり、2010年には仙北市が上位だったものが、2015年と2020年は仙北市が下位になっている。

図表 9 未婚率（女性）の推移

未婚率 (25～39歳)	女性					
	2010年 (%)	順位 (位)	2015年 (%)	順位 (位)	2020年 (%)	順位 (位)
秋田市	37.7	21	38.8	19	39.7	15
能代市	31.6	11	36.5	15	41.1	18
横手市	31.1	7	33.1	6	35.4	6
大館市	32.7	14	34.9	10	36.6	9
男鹿市	43.1	25	43.0	24	47.9	25
湯沢市	31.2	8	36.1	13	41.4	19
鹿角市	30.4	3	30.1	2	33.8	4
由利本荘市	31.4	10	33.0	5	36.1	7
潟上市	34.2	16	36.6	16	37.2	11
大仙市	32.5	12	34.1	8	36.6	8
北秋田市	34.0	15	36.0	12	38.2	13
にかほ市	30.5	4	31.2	3	33.2	3
仙北市	31.3	9	34.7	9	37.2	10
小坂町	31.0	6	32.8	4	35.0	5
上小阿仁村	37.5	20	37.8	17	37.5	12
藤里町	37.2	19	42.2	23	40.6	17
三種町	36.4	18	41.8	22	44.0	22
八峰町	30.7	5	35.3	11	43.0	21
五城目町	38.8	23	41.5	21	42.1	20
八郎潟町	39.0	24	44.3	25	47.2	24
井川町	38.7	22	41.2	20	46.6	23
大潟村	22.8	1	23.4	1	27.9	1
美郷町	32.7	13	36.2	14	38.6	14
羽後町	35.8	17	37.9	18	40.1	16
東成瀬村	26.9	2	33.3	7	31.8	2

(出典) 内閣官房・内閣府「地域少子化・働き方指標」第五版

③ 男女の比較

仙北市の未婚率は、男性は2010年に46.4%だったものが2020年に55.3%、女性は2010年に31.3%だったものが2020年に37.2%となり、男女ともに未婚率が上昇している。

男性と女性を比較すると、男性は2010年に15.1ポイント差、2015年に14.2ポイント差、2020年に18.1ポイント差であり、男性の未婚率が高く、経年でみるとその差は拡大している。

図表 10 未婚率（男性・女性）の推移

未婚率 (25～39歳)	男性						女性					
	2010年 (%)	順位 (位)	2015年 (%)	順位 (位)	2020年 (%)	順位 (位)	2010年 (%)	順位 (位)	2015年 (%)	順位 (位)	2020年 (%)	順位 (位)
秋田市	46.7	3	48.0	2	49.3	1	37.7	21	38.8	19	39.7	15
能代市	46.9	4	51.6	11	56.4	11	31.6	11	36.5	15	41.1	18
横手市	47.6	7	49.1	6	53.1	4	31.1	7	33.1	6	35.4	6
大館市	47.6	6	49.7	7	54.3	6	32.7	14	34.9	10	36.6	9
男鹿市	59.7	24	58.7	21	62.8	20	43.1	25	43.0	24	47.9	25
湯沢市	51.5	14	53.9	14	58.5	12	31.2	8	36.1	13	41.4	19
鹿角市	48.3	10	49.9	8	55.8	9	30.4	3	30.1	2	33.8	4
由利本荘市	47.8	8	50.5	9	54.0	5	31.4	10	33.0	5	36.1	7
潟上市	47.3	5	48.7	3	50.4	2	34.2	16	36.6	16	37.2	11
大仙市	48.1	9	48.9	4	50.4	3	32.5	12	34.1	8	36.6	8
北秋田市	53.6	19	54.0	15	59.6	14	34.0	15	36.0	12	38.2	13
にかほ市	52.0	16	51.9	12	60.5	15	30.5	4	31.2	3	33.2	3
仙北市	46.4	2	48.9	5	55.3	7	31.3	9	34.7	9	37.2	10
小坂町	49.6	11	58.3	20	61.4	16	31.0	6	32.8	4	35.0	5
上小阿仁村	64.2	25	59.8	23	66.8	24	37.5	20	37.8	17	37.5	12
藤里町	55.7	20	60.2	24	67.7	25	37.2	19	42.2	23	40.6	17
三種町	51.6	15	56.5	18	61.6	17	36.4	18	41.8	22	44.0	22
八峰町	53.1	18	59.5	22	64.4	22	30.7	5	35.3	11	43.0	21
五城目町	58.7	23	57.9	19	61.9	18	38.8	23	41.5	21	42.1	20
八郎潟町	57.0	22	60.7	25	63.6	21	39.0	24	44.3	25	47.2	24
井川町	50.5	13	56.2	17	66.5	23	38.7	22	41.2	20	46.6	23
大潟村	41.3	1	46.1	1	56.1	10	22.8	1	23.4	1	27.9	1
美郷町	49.8	12	51.3	10	55.6	8	32.7	13	36.2	14	38.6	14
羽後町	52.3	17	54.9	16	58.8	13	35.8	17	37.9	18	40.1	16
東成瀬村	56.9	21	53.7	13	62.1	19	26.9	2	33.3	7	31.8	2

(出典) 地域少子化・働き方指標

(4) 平均初婚年齢

① 男性

仙北市の男性の平均初婚年齢は、2013年に29.5歳で県内6位、2018年には31.5歳で県内16位となり、2.0ポイント上昇している。

近隣の大仙市は2013年に29.9歳で県内8位、2018年に31.2歳で県内12位となっている。

仙北市と大仙市を比較すると、仙北市は2013年で-0.4ポイント差、2018年で0.3ポイント差であり、2013年には仙北市が上位だったものが、2018年は仙北市が下位になっている。

図表 11 初婚年齢（男性）の推移

平均初婚年齢	男性			
	2013年 (歳)	順位 (位)	2018年 (歳)	順位 (位)
秋田市	30.9	14	31.1	11
能代市	32.6	22	31.7	18
横手市	31.3	18	31.6	17
大館市	30.7	12	31.3	15
男鹿市	31.1	15	31.9	19
湯沢市	31.3	18	30.0	5
鹿角市	31.2	17	31.0	10
由利本荘市	30.1	10	31.2	12
潟上市	28.1	2	29.3	4
大仙市	29.9	8	31.2	12
北秋田市	31.1	15	30.3	6
にかほ市	30.0	9	30.9	8
仙北市	29.5	6	31.5	16
小坂町	32.8	23	25.8	1
上小阿仁村	—	—	—	—
藤里町	32.2	20	39.6	24
三種町	28.6	3	31.2	12
八峰町	27.0	1	33.2	20
五城目町	34.1	24	35.3	23
八郎潟町	32.2	20	28.2	2
井川町	30.2	11	33.3	21
大潟村	28.9	4	28.6	3
美郷町	29.6	7	30.9	8
羽後町	30.7	12	30.8	7
東成瀬村	28.9	4	33.6	22

(出典) 内閣官房・内閣府「地域少子化・働き方指標」第五版

② 女性

仙北市の女性の平均初婚年齢は、2013年に27.6歳で県内3位、2018年には30.2歳で県内17位となり、2.6ポイント上昇している。

近隣の大仙市は2013年に28.3歳で県内7位、2018年に29.8歳で県内15位となっている。

仙北市と大仙市を比較すると、仙北市は2013年で-0.7ポイント差、2018年で0.4ポイント差であり、2013年には仙北市が上位だったものが、2018年は仙北市が下位になっている。

図表 12 初婚年齢（女性）の推移

平均初婚年齢	女性			
	2013年 (歳)	順位 (位)	2018年 (歳)	順位 (位)
秋田市	28.9	14	29.4	13
能代市	30.5	22	29.7	14
横手市	29.6	19	29.0	9
大館市	28.9	14	29.0	9
男鹿市	28.7	12	30.2	17
湯沢市	28.5	10	28.9	7
鹿角市	30.4	21	29.8	15
由利本荘市	28.0	6	28.5	4
潟上市	27.5	2	29.0	9
大仙市	28.3	7	29.8	15
北秋田市	27.9	5	28.9	7
にかほ市	28.9	14	29.1	12
仙北市	27.6	3	30.2	17
小坂町	27.8	4	25.3	2
上小阿仁村	—	—	—	—
藤里町	29.2	17	33.8	24
三種町	28.8	13	28.6	5
八峰町	25.1	1	33.2	23
五城目町	30.9	23	31.8	21
八郎潟町	31.3	24	24.5	1
井川町	28.5	10	30.8	19
大潟村	28.3	7	32.3	22
美郷町	28.4	9	28.7	6
羽後町	29.2	17	28.4	3
東成瀬村	29.6	19	31.7	20

(出典) 内閣官房・内閣府「地域少子化・働き方指標」第五版

③ 男女の比較

仙北市の平均初婚年齢は、男性は2013年に29.5歳だったものが2018年には31.5歳、女性は2013年に27.6歳だったものが2018年には30.2歳となり、男女ともに平均初婚年齢が上昇している。

男性と女性を比較すると、男性は2013年に1.9ポイント差、2018年に1.3ポイント差であり、男性の平均初婚年齢が高いが、男女の差は縮まっている。

図表 13 初婚年齢（男性・女性）の推移

平均初婚 年齢	男性				女性			
	2013年 (歳)	順位 (位)	2018年 (歳)	順位 (位)	2013年 (歳)	順位 (位)	2018年 (歳)	順位 (位)
秋田市	30.9	14	31.1	11	28.9	14	29.4	13
能代市	32.6	22	31.7	18	30.5	22	29.7	14
横手市	31.3	18	31.6	17	29.6	19	29.0	9
大館市	30.7	12	31.3	15	28.9	14	29.0	9
男鹿市	31.1	15	31.9	19	28.7	12	30.2	17
湯沢市	31.3	18	30.0	5	28.5	10	28.9	7
鹿角市	31.2	17	31.0	10	30.4	21	29.8	15
由利本荘市	30.1	10	31.2	12	28.0	6	28.5	4
潟上市	28.1	2	29.3	4	27.5	2	29.0	9
大仙市	29.9	8	31.2	12	28.3	7	29.8	15
北秋田市	31.1	15	30.3	6	27.9	5	28.9	7
にかほ市	30.0	9	30.9	8	28.9	14	29.1	12
仙北市	29.5	6	31.5	16	27.6	3	30.2	17
小坂町	32.8	23	25.8	1	27.8	4	25.3	2
上小阿仁村	—	—	—	—	—	—	—	—
藤里町	32.2	20	39.6	24	29.2	17	33.8	24
三種町	28.6	3	31.2	12	28.8	13	28.6	5
八峰町	27.0	1	33.2	20	25.1	1	33.2	23
五城目町	34.1	24	35.3	23	30.9	23	31.8	21
八郎潟町	32.2	20	28.2	2	31.3	24	24.5	1
井川町	30.2	11	33.3	21	28.5	10	30.8	19
大潟村	28.9	4	28.6	3	28.3	7	32.3	22
美郷町	29.6	7	30.9	8	28.4	9	28.7	6
羽後町	30.7	12	30.8	7	29.2	17	28.4	3
東成瀬村	28.9	4	33.6	22	29.6	19	31.7	20

(出典) 内閣官房・内閣府「地域少子化・働き方指標」第五版

II 人口推計

本市の将来人口の推計にあたっては、「コーホート変化率法」と「人口推計可変型」の2種類の方法により推計した。本市の特徴である市の面積の広大さ、そして、地区別に生活形態がある実情を踏まえると、市全体の推計及び地区ごとの推計が可能になる「コーホート変化率法」を中心とした検討の妥当性が高い。

◎コーホート変化率法：コーホート法とは同時に出生した集団（コーホート）の、ある期間の人口の変化を捉えることで将来人口を推計する方法であり、コーホート変化率法は各コーホートのデータから変化率を算出し、将来もこの変化率が大きく変化しないと仮定して推計を行う方法である。

◎人口推計可変型：生残率（国立社会保障・人口問題研究所による推計値）から封鎖人口を計算し、封鎖人口から社会移動率を測定することで社会移動を推計した上で、封鎖人口+社会増減（社会移動率×前5年度人口）により、人口を推計する方法である。

1 コーホート変化率

コーホート変化率推計は2019年、2023年は住民基本台帳のデータを使用し、2027年から2059年は4年前のデータにコーホート変化率を掛けて推計値を算出している。

全体の簡易推計と積み上げ推計の2パターンで推計し、全体の簡易推計は仙北市全体のデータにコーホート変化率を掛けて推計値を算出したものである。

積み上げ推計は同様の算出方法で地区別に推計した数値を合算し、仙北市全体として積み上げたものである。

「(1) 市全体」は全体の簡易推計と積み上げ推計の2パターン、「(2) 地区別」は簡易推計である。

(1) 市全体

全体の簡易推計では、2059年の総人口は6,568人で、2019年(26,299人)と比較すると19,731人減少し、2019年人口から75.0%減少する推計となっている。

積み上げ推計では、2059年の総人口は7,397人で、2019年(26,299人)と比較すると18,902人減少し、2019年人口から71.9%減少する推計となっている。

図表 14 総人口推移 ※2027年以降は推計値

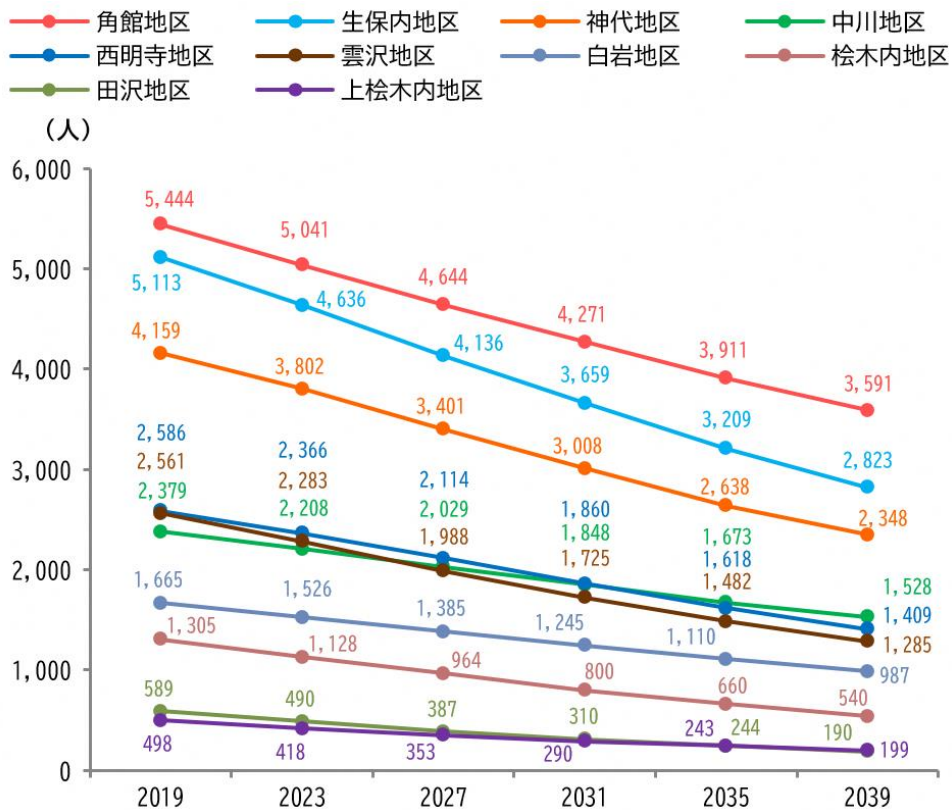
(単位：人)

総人口	2019年	2023年	2027年	2031年	2035年	2039年	2043年
全体	26,299	23,898	21,340	18,897	16,621	14,535	12,571
積み上げ	26,299	23,898	21,403	19,015	16,789	14,900	12,991

総人口	2047年	2051年	2055年	2059年	人口増減 (2019-2059)	
全体	10,806	9,214	7,813	6,568	-19,731	-75.0%
積み上げ	11,321	9,863	8,495	7,397	-18,902	-71.9%

(出典) 総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」

(2) 地区別



(出典) 住民基本台帳をベースに仙北市で独自集計(2023年)

生保内地区の2059年の総人口は1,374人で、2019年(5,113人)と比較すると3,739人減少し、2019年人口から73.1%減少する推計となっている。

田沢地区の2059年の総人口は35人で、2019年(589人)と比較すると554人減少し、2019年人口から94.1%減少する推計となっている。

神代地区の2059年の総人口は1,133人で、2019年(4,159人)と比較すると3,026人減少し、2019年人口から72.8%減少する推計となっている。

角館地区の2059年の総人口は2,116人で、2019年(5,444人)と比較すると3,328人減少し、2019年人口から61.1%減少する推計となっている。

中川地区の2059年の総人口は851人で、2019年(2,379人)と比較すると1,528人減少し、2019年人口から64.2%減少する推計となっている。

雲沢地区の2059年の総人口は540人で、2019年(2,561人)と比較すると2,021人減少し、2019年人口から78.9%減少する推計となっている。

白岩地区の2059年の総人口は543人で、2019年(1,665人)と比較すると1,122人減少し、2019年人口から67.4%減少する推計となっている。

上桧木内地区の2059年の総人口は57人で、2019年(498人)と比較すると441人減少し、2019年人口から88.5%減少する推計となっている。

桧木内地区の2059年の総人口は150人で、2019年(1,305人)と比較すると1,155人減少し、2019年人口から88.5%減少する推計となっている。

西明寺地区の2059年の総人口は600人で、2019年(2,586人)と比較すると1,986人減少し、2019年人口から76.8%減少する推計となっている。

図表 15 地区別人口推移 ※2027 年以降は推計値

(単位：人)

総人口	2019 年	2023 年	2027 年	2031 年	2035 年	2039 年	2043 年
生保内地区	5,113	4,636	4,136	3,659	3,209	2,823	2,432
田沢地区	589	490	387	310	244	190	139
神代地区	4,159	3,802	3,401	3,008	2,638	2,348	2,036
角館地区	5,444	5,041	4,644	4,271	3,911	3,591	3,254
中川地区	2,379	2,208	2,029	1,848	1,673	1,528	1,368
雲沢地区	2,561	2,283	1,988	1,725	1,482	1,285	1,086
白岩地区	1,665	1,526	1,385	1,245	1,110	987	872
上桧木内地区	498	418	353	290	243	199	162
桧木内地区	1,305	1,128	964	800	660	540	426
西明寺地区	2,586	2,366	2,114	1,860	1,618	1,409	1,216

総人口	2047 年	2051 年	2055 年	2059 年	人口増減 (2019-2059)	
生保内地区	2,117	1,846	1,584	1,374	-3,739	-73.1%
田沢地区	101	71	52	35	-554	-94.1%
神代地区	1,768	1,541	1,319	1,133	-3,026	-72.8%
角館地区	2,921	2,614	2,330	2,116	-3,328	-61.1%
中川地区	1,224	1,082	952	851	-1,528	-64.2%
雲沢地区	917	788	647	540	-2,021	-78.9%
白岩地区	770	685	605	543	-1,122	-67.4%
上桧木内地区	129	98	77	57	-441	-88.5%
桧木内地区	332	257	197	150	-1,155	-88.5%
西明寺地区	1,043	880	732	600	-1,986	-76.8%

(出典) 総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」

人口の減少幅が最大の地区は田沢地区の 94.1%、次点は上桧木内地区と桧木内地区の 88.5%であり、最小の地区は角館地区の 61.1%、次点は中川地区の 64.2%である。

2019 年を基準にして 2059 年に人口が 80%以上減少する推計となっている地区は、田沢地区 (94.1%)、上桧木内地区 (88.5%)、桧木内地区 (88.5%) の 3 地区である。

2 人口推計可変型

人口推計可変型は2010年から2020年は国勢調査のデータを使用し、2025年から2060年は5年毎に原本と自然+3%の2パターンで推計している。

原本は生残率（国立社会保障・人口問題研究所による推計値）から封鎖人口を計算し、封鎖人口から社会移動率を測定することで社会移動を推計した上で、封鎖人口+社会増減により人口を推計するもので、推計する際の社会移動率には2020年のデータを使用して推計したものである。

自然+3%は、原本と同様の算出方法を使用するが、年代別出生数の女性子ども比が3%増加すると仮定したもので、封鎖人口と社会移動率のデータが変動することにより生産年齢人口が3%上昇すると想定して推計したものである。

(1) 市全体

原本では、2060年の総人口は7,894人で、2020年（24,610人）と比較すると16,716人減少し、2020年人口から67.9%減少する推計となっている。

自然+3%では、2060年の総人口は7,700人で、2020年（24,610人）と比較すると16,910人減少し、2020年人口から68.7%減少する推計となっている。

図表 16 総人口推移 ※2025年以降は推計値

								(単位：人)	
総人口	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年		
原本	29,568	27,523	24,610	22,033	19,296	16,714	14,531		
自然+3%	29,568	27,523	24,610	21,438	18,809	16,364	14,079		
総人口	2045年	2050年	2055年	2060年	人口増減 (2020-2060)				
原本	12,327	10,325	8,878	7,894	-16,716		-67.9%		
自然+3%	11,875	9,910	8,662	7,700	-16,910		-68.7%		

(出典) 総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」

3 推計間比較

(1) 人口全体

人口推計可変型とコーホート変化率推計の総人口を比較すると、2060年（コーホート変化率推計は2059年）には、人口推計可変型の原本では7,894人、自然+3%では7,700人、コーホート変化率推計の全体では6,568人、積み上げでは7,397人と、総人口は6千～7千人台に減少する推計となっている。

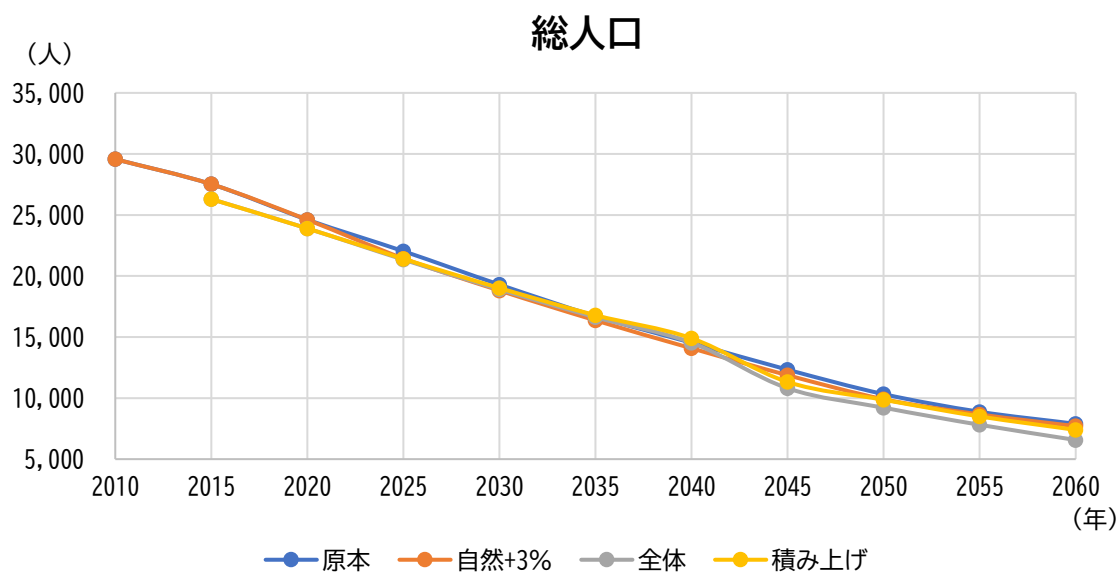
図表 17 推計間比較（総人口） ※2025年以降は推計値

(単位：人)

総人口		2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年
人口推計可変型	原本	29,568	27,523	24,610	22,033	19,296	16,714
	自然+3%	29,568	27,523	24,610	21,438	18,809	16,364
コーホート変化率推計	全体		26,299	23,898	21,340	18,897	16,621
	積み上げ		26,299	23,898	21,403	19,015	16,789
			(2019)	(2023)	(2027)	(2031)	(2035)

総人口		2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
人口推計可変型	原本	14,531	12,327	10,325	8,878	7,894
	自然+3%	14,079	11,875	9,910	8,662	7,700
コーホート変化率推計	全体	14,535	10,806	9,214	7,813	6,568
	積み上げ	14,900	11,321	9,863	8,495	7,397
		(2039)	(2047)	(2051)	(2055)	(2059)

(出典) 人口推移可変型は総務省「国勢調査」、コーホート変化率推計は総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」



(2) 高齢化率

人口推計可変型とコーホート変化率推計の高齢化率を比較すると、2060年（コーホート変化率推計は2059年）には、人口推計可変型の原本では55.6%、自然+3%では52.9%、コーホート変化率推計の全体では57.7%、積み上げ推計では54.4%と、4パターン全てにおいて高齢化率が50%台に増加する推計となっている。

図表 18 推計間比較（高齢化率） ※2025年以降は推計値

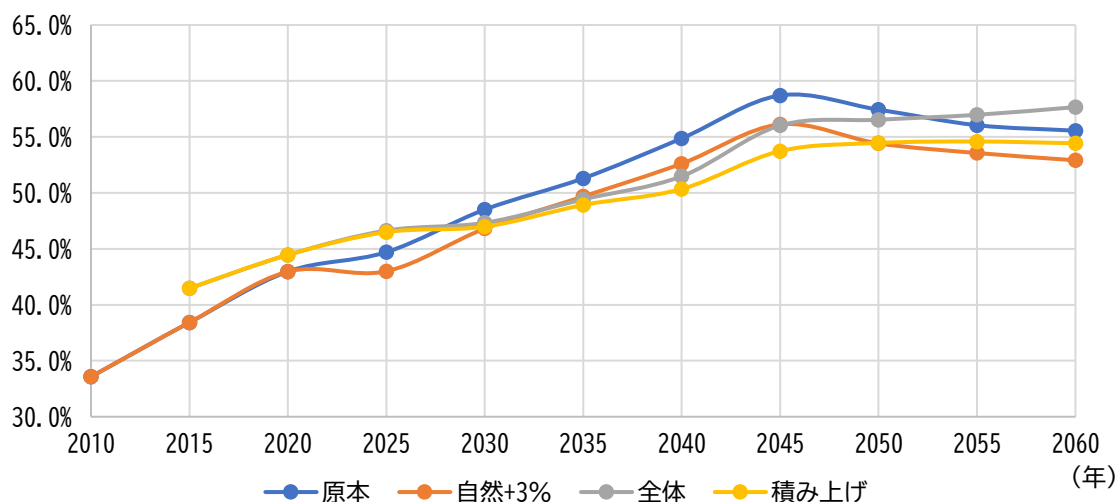
(単位：%)

65歳以上 高齢化率		2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年
人口推計可変型	原本	33.6	38.4	43.0	44.7	48.5	51.3
	自然+3%	33.6	38.4	43.0	43.0	46.8	49.7
コーホート変化率推計	全体		41.5	44.5	46.6	47.3	49.4
	積み上げ		41.5	44.5	46.5	47.0	48.9
		(コーホート変化率推計の年度)	(2019)	(2023)	(2027)	(2031)	(2035)

65歳以上 高齢化率		2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	
人口推計可変型	原本	54.9	58.7	57.4	56.0	55.6	
	自然+3%	52.6	56.1	54.4	53.6	52.9	
コーホート変化率推計	全体	51.5	56.0	56.5	57.0	57.7	
	積み上げ	50.3	53.7	54.5	54.6	54.4	
		(コーホート変化率推計の年度)	(2039)	(2047)	(2051)	(2055)	(2059)

(出典) 人口推移可変型は総務省「国勢調査」、コーホート変化率推計は総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」

65才以上 高齢化率



(3) 75歳以上の高齢化率

人口推計可変型とコーホート変化率推計の75歳以上の高齢化率を比較すると、2060年（コーホート変化率推計は2059年）には、人口推計可変型の原本では34.6%、自然+3%では31.4%、コーホート変化率推計の全体では39.0%、積み上げ推計では36.2%と、4パターン全てにおいて75歳以上の高齢化率が30%台に増加する推計となっている。

図表 19 推計間比較（高齢化率・75歳以上） ※2025年以降は推計値

(単位：%)

75歳以上 高齢化率		2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年
人口推計可変型	原本	18.9	21.8	23.0	24.8	29.5	33.5
	自然+3%	18.9	21.8	23.0	22.5	27.3	31.5
コーホート変化率推計	全体		22.5	24.7	28.1	30.2	31.6
	積み上げ		22.5	24.7	28.0	30.0	31.3
			(2019)	(2023)	(2027)	(2031)	(2035)

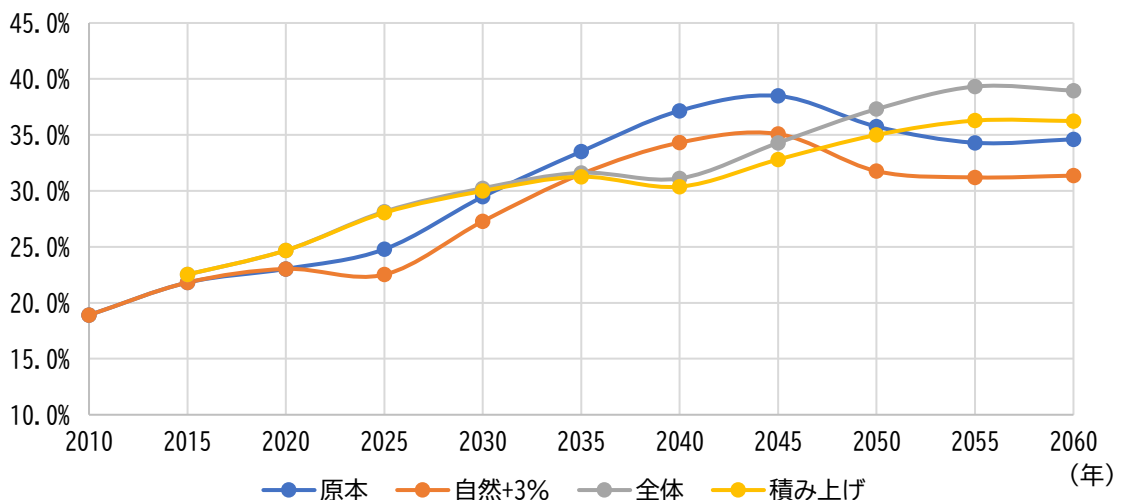
(コーホート変化率推計の年度)

75歳以上 高齢化率		2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
人口推計可変型	原本	37.2	38.5	35.7	34.3	34.6
	自然+3%	34.3	35.1	31.8	31.2	31.4
コーホート変化率推計	全体	31.1	34.3	37.3	39.3	39.0
	積み上げ	30.4	32.8	35.0	36.3	36.2
		(2039)	(2047)	(2051)	(2055)	(2059)

(コーホート変化率推計の年度)

(出典) 人口推移可変型は総務省「国勢調査」、コーホート変化率推計は総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」

75歳以上 高齢化率



(4) 年少人口比率

人口推計可変型とコーホート変化率推計の年少人口比率を比較すると、2060年（コーホート変化率推計は2059年）には、人口推計可変型の原本では4.3%、自然+3%では4.7%、コーホート変化率推計の全体では4.4%、積み上げ推計では4.6%と、4パターン全てにおいて年少人口比率が4%台に減少する推計となっている。

図表 20 推計間比較（年少人口比率） ※2025年以降は推計値

（単位：％）

年少人口比率		2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年
人口推計可変型	原本	10.8	10.0	8.7	7.9	6.3	5.1
	自然+3%	10.8	10.0	8.7	8.2	6.5	5.3
コーホート変化率推計	全体		9.2	7.9	6.7	5.8	5.8
	積み上げ		9.2	7.9	6.8	5.9	5.9

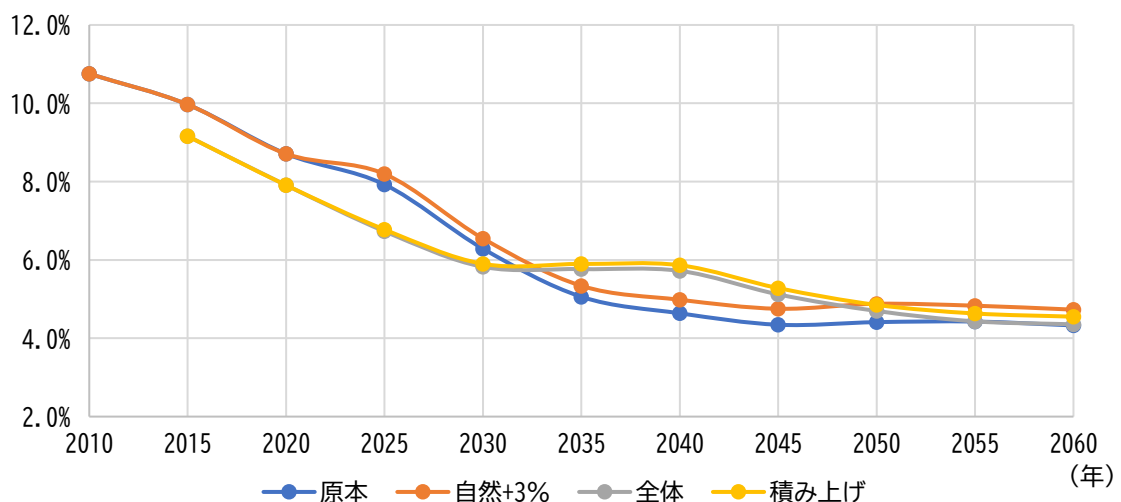
（コーホート変化率推計の年度） (2019) (2023) (2027) (2031) (2035)

年少人口比率		2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
人口推計可変型	原本	4.6	4.3	4.4	4.4	4.3
	自然+3%	5.0	4.8	4.9	4.8	4.7
コーホート変化率推計	全体	5.7	5.1	4.7	4.4	4.4
	積み上げ	5.9	5.3	4.9	4.6	4.6

（コーホート変化率推計の年度） (2039) (2047) (2051) (2055) (2059)

（出典）人口推移可変型は総務省「国勢調査」、コーホート変化率推計は総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」

年少人口比率



Ⅲ 人口目標

今回集計した二つの推計値及び国推計値を勘案し、2030年18,000人とする。コーホート変化率法などを活用し、年度ごとに人口推計を行う。市全体の人口動向、及び、地区別の人口動向などを随時確認し、適切な行政サービスを執行する。

なお、本目標値を市が現在進めている庁舎機能の移転・集約における根拠データとする。